



小学校を巡回訪問して、小学生に柔道を指導している協力隊員



ボツワナ共和国

初代柔道隊員の遺志を継いで続けられる柔道支援

2018年7月～2020年7月

ボツワナ共和国では、1996年に柔道愛好家によりボツワナ柔道連盟が設立されて国内での柔道の普及活動が行われています。ボツワナの柔道人口は約800名。現在、青年海外協力隊員の柔道隊員が派遣されて、配属先のコーチ達と協力して国代表チームへの指導、国内の柔道人口増加を目指して小学生から社会人までの幅広い年齢層の男女に対して、柔道を通じて「礼儀・作法」の普及・啓発活動も実施しています。また、学校教育への柔道の導入を目指して小学校への巡回指導も実施しています。

2013年に初めて青年海外協力隊員の柔道隊員が派遣されて、国代表チームへの指導に情熱的に取り組んできました。残念ながら初代隊員は任期中に不慮の事故により亡くなりました。その後、初代隊員の遺志を受け継いだ教え子であるガビン・モゴマ選手は、2016年のリオ・オリンピックにボツワナ柔道界として初めて代表選手として出場しました。現在派遣中の隊員が継続して同選手に対して2020年の東京オリンピックへの出場を目指して指導中です。

～活動や目指す成果～

青年海外協力隊員の派遣

国代表チームへの指導を行い、指導中の選手が2020年の東京オリンピックに出場することを目指しています。

小学校から社会人までの幅広い層の男女に指導して、ボツワナ国内での柔道の普及を目指しています。柔道を通して、健康な体を作ると同時に礼儀作法やマナーの指導等、青少年の健全な心身の育成に貢献しています。柔道人口の裾野拡大に向けて、柔道を通して「礼儀作法」の普及・啓発活動を目指しています。